

2024年6月14日熊取、奥山雨山自然公園で観察した植物

作：岡田 弘

オオニワゼキショウ（大庭石菖）アヤメ科ニワゼキショウ属＊花期＝6～7月

名前の由来＝ニワゼキショウより背が高いのでオオ（大）ニワゼキショウはショウブ科のセキショウ（石菖）に葉の形状が似ていて、庭に良く咲いていたことから。**＊花言葉＝清らかな貴婦人**（そら組の女性??）
一年草または多年草、葉は線形、剣形、で幅は約1.5～5mm、花柱が長く葉10～15cmになる、ニワゼキショウの倍ぐらい背が高い（環境により差がある）花色は淡い紫、淡いブルー色が多い、花弁に筋がある。



ツボミオオバコ（蕾大葉子）オオバコ科オオバコ属＊花期＝5～8月

名前の由来＝花冠がほとんど開かないことからツボミ、オオバコは葉が広くて大きいことから、車前草と書きオオバコと読むのは、中国からの由来で、馬車が通る道で他の草が生えない場所に多く生えていた事による、ツボミオオバコは全体に綿毛が多く白っぽく見える。両性の閉鎖花と雌性の閉鎖花がある。北アメリカ原産の帰化植物で日本全土に分布している。
＊花言葉＝耐え忍ぶ愛。 帰化植物でヘラオオバコと言う葉がヘラ形したのもあります。



ノギラン（芒蘭）キンコウカ科ノギラン属＊花期6～8月

名前の由来＝ノギ（芒）とはイネ科の植物の実から生える針状の毛を意味し、雄しべや花弁からイメージされたものです、ラン（蘭）は小花が多数つく様子をランに見立てたものです。蘭とは種として関係ない。よく似た葉の形状をしたショウジョウバカマがあります。ノギランは乾燥した日当たりを好みますが、ショウジョウバカマはやや湿り気の場所を好みます。葉での区分は難しいです。**＊花言葉＝純潔、多彩な人**



コバンソウ（小判草）イネ科コバンソウ属＊花期＝5～9月

名前の由来＝小穂を構成する小花の形と成熟した時の黄褐色の果実を、江戸時代の通貨である小判に例えたことです。**＊花言葉＝大金持ち、心の動揺、興奮**
ヨーロッパ原産の一年草、明治時代に観賞用として導入されたものが野生化して、暖地の道端等に自生している帰化植物。この種の小さいのにヒメコバンソウがある。



ササユリ（笹百合）ユリ科ユリ属＊花期＝5～7月

名前の由来＝葉が笹の葉に似ていることからササと言う名、ユリとは花茎が長いので風にゆらゆら揺れる姿からつけられた、花が揺れるので「揺すり」と呼ばれているのが「ユリ」になったようです。
＊花言葉＝上品、清浄、純潔、花言葉「上品」とは淡いピンク色の花を少しうつ向き加減に咲かせる姿が控えめで上品なことからつけられた。立てば芍薬座れば牡丹、歩く姿は百合の花と言う言葉の様な美人の代名詞のような花です。別名、サユリ（早百合）とも呼ばれている、他の百合より早く咲くので、葉は互生、披針形、芽出しの葉は幅が広く一枚のみ、2～3年となると茎が出来て、5年目ぐらいに花を咲かせる、ユリ根に栄養が溜まり大きくなると花が咲かない。鹿が好んで食べてしまうので見かけることは少ない。



ウツボグサ（靱草）シソ科ウツボグサ属＊花期＝6～8月。

名前の由来＝武士が弓矢を入れて背負った「靱（うつば）」と言う道具を覆っていた皮とウツボグサの葉や茎の毛が似ていることに由来すると言われている。北海道～九州の山野や道端に生えている多年草、葉は対生、長楕円形、茎の先に花穂を作り、紫色の唇形花を密につける、毛の多い歪んだ心形の苞の基部に花がつく、**＊花言葉＝優しく癒す**。薬用植物としても、食べることも出来る、民間薬として「カコソウ（夏枯草）」として膀胱炎、淋病、腎臓結石などに用いられている、又、花穂をすり潰して止血などにも利用する。



ハナハマセンブリ（花浜千振）リンドウ科ベニバナセンブリ属

花では、ハナハマセンブリとベニバナセンブリと区分は出来ません、今回観察したのはどちらか分かりません、決定的な違いは、右の写真の様に、根生葉があるか無いかの違いです、あるのがベニバナセンブリ、無いのがハナハマセンブリです。今回そこを見ていませんでした、ハナハマセンブリは1年草で冬枯れます、ベニバナセンブリは越年草ですので冬ロゼット状で残ります、センブリの由来は千回降っても苦い薬効があると言われていたから（振り出すとは熱湯の中に薬草を親して成分を溶かしこむことです）ハナハマセンブリについては、**昨年7月14日の」神戸税関で観察した植物**で紹介していますので、今一度確認してください。**＊花言葉＝癒す。**



ベニバナセンブリ



ハナハマセンブリ